

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370200984		
法人名	社会福祉法人 ま心苑会		
事業所名	グループホームま心		
所在地	熊本県八代市敷川内町2243番地2		
自己評価作成日	平成25年 10月 25 日(金)	評価結果市町村受理日	平成26年2月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 NPOまい
所在地	熊本市中央区草葉町1丁目13番205号室
訪問調査日	平成25年12月11日(水)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、活動を目的として多く取り組んでいます。季節に応じた苑外活動で遠方まで出かける事もあり外食支援も取り入れています。利用者の皆さん含め、ご家族や地域の方との交流を大切にしています。運営推進会議では、毎回ご家族と多くの地域の方が、ご出席して頂いています。また、作品を作りふれあいフェスタへ出品し販売しており利用者一人ひとりが楽しく生活できるよう、居室の雰囲気などはなるべくその人らしさを感じられるようお手伝いをしています。毎日、天然温泉による入浴サービスも喜んで頂いています。趣味多彩のスタッフも多く明るくコミュニケーションを多く取り組み協調性も見られています。理念の【安心・ま心・信頼】を大切に利用者・ご家族・地域と一緒に楽しんで生活が送れているグループホームま心です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念の「安心、ま心、信頼」を大切に、利用者をはじめ、ご家族、地域の皆様と一緒に楽しんで生活するための配慮が随所に見られ、利用者スタッフの温かい関係性が感じられました。運営推進会議の中にカラオケや作品作りを取り入れることで、毎回半数以上の参加を得て開催されています。運営推進会議の参加者がスタッフや利用者顔なじみの関係を築き、会議の中で利用者の状況や日頃の活動報告がなされるだけでなく、地域からの要望や意見をスムーズに引き出す工夫がなされています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	申し送り前には、「グループホーム理念」を職員で声を出し唱和している。理念を踏まえて日々の業務に取り組んでいる。	法人の理念「安心、ま心、信頼」を加え事業所として和を基に取り組まれています。また5年ごとに理念を再構築し、それを職員自ら手書きをし、実践につなげ、具体化していくように取り組まれています。	利用者が地域の中でその人らしく過ごしていけるような実践が具体化されることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	苑外の散歩時は近隣の方と会話したり近くの小学校から運動会のご案内を頂き利用者と一緒に見学等している。利用者も子供たちの姿に喜ばれ一緒に体操をされたり楽しい時間を過ごしている。	地域の合同の清掃活動への参加はありません。管理者が地域在住であり、地域とのつながりは密です。小学校の運動会や敬老会など地域の行事に参加されています。	施設周りの清掃や回覧板など、地域の一員として参加できることから初めてみられてはいかがでしょうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で「認知症について」の勉強会を設けている。参加頂いた方々から「自分も思い当たる」などいろいろな声を頂いており、参加者の皆さんには認知症への理解が深まっていると感じる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の運営推進会議では行政や地域・家族をお招きして毎回趣向を変えた取り組みを実施している。その場で頂いた意見を活かし次回の推進会議に盛り込んでいる。また「グループホーム便り」を発行しホームの行事や日々の出来事をご報告しています。	行政や家族の参加もあり、親密な連携がなされています。委員会の中でカラオケ大会や作品作りを利用者と一緒に行い、日頃のサービスの内容や様子を直に知っていただくような工夫をされています。	運営推進会議では報告や情報交換に止まらず、会議のメンバーからの意見を受けて、更なるサービスの向上に努められることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政の方も運営推進会議へ参加頂き、親しみもできない点があれば市へ外向き相談している。八代ブロック会研修へ年一回行政との研修や市が主催する研修へも定期的に参加している。	行政担当者の運営推進会議への出席、活動参加を通じて事業所、利用状況への理解を深め、協力関係を築かれています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	天気の良い日にはフロアを網戸にし苑庭でお茶等を楽しんでいます。玄関や勝手口等には危険箇所があるため施錠が付いています。	施設近くの道路が交通量が多く、ご家族の要望から話し合いを重ね、利用者の状況に応じて対応されています。	家族と繰り返し話し合いの場を設け、利用者自身の思いや体力に応じて、時間帯を見て開錠する時間を増やすなど、安全に過ごすことのできるような工夫を重ねていかれることを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者の安全を第一とし日々の見守りを徹底している。八代GHブロック会が主催する「虐待」についての研修に参加している。後日、参加出来なかった職員へ資料を配布し再度、勉強会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	八代グループホームブロック会の研修に参加し年に一度は権利擁護について学んでいます。事例を使った研修会でとても分かり易い研修内容となっている。その後、再度勉強会を開き研修報告をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時、利用者契約書・重要事項説明書・家族会等の説明は十分しているが、家族が理解されていない事もある為、その都度説明に応じている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関の出入口に意見箱を設置しているが、今だに書き込みはなく口頭での相談が多い。家族には、近況報告やGH便り、運営推進会議、サービス担当者会議、面会時に小まめに報告が来ている。	家族から口頭でスタッフに相談されることが多いです。家族の訪問は定期的にあり、その都度家族と話をしたり、運営推進会議の交流など、ことあるごとに繰り返し利用状況を説明されています。	直接または間接的にでも相談をためらう家族の心情を察して、より多くの意見や要望を出してもらえような工夫を期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者への相談する機会も設けてあり必要品等も伺いにてスムーズに購入が来ている。職員からのアイデアや要望も受け入れられ趣味多彩な職員が多い。協調性も見られる。	年度初めの全体ミーティングで職員の意見や要望を聞かれています。研修は年間計画に組み入れ、また代表者の訪問時にアイデアや要望を伝え改善に反映されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自ら資格取得へ努力し、勤務状況に責任感がみられる。代表者も職員の能力向上、人事考課を設け、日頃の勤務対応を把握し意欲向上に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修内・外部に参加が多く、参加出来ない職員は研修の報告をし勉強会を開いている。研修には意欲を持って参加する職員が多い。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月に一度、八代グループホームブロック会で研修会を開催し、他の事業所(管理者、職員)と親睦を深め楽しいひと時を過ごしている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、本人や家族へ担当ケアマネと面談し、現状の情報収集を行う。本人が困っている事などがあれば、相談にのり言葉かけだったり外出支援を促している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と日常の会話を通し、面会、サービス担当者会議、運営推進会議を通し、相談の場を設けている。家族の要望があると、個別で相談する機会を設け対応している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の会話の中から情報収集し、必要性のあるものから、サービス提供へつなぐよう努めている。職員とのケース会議でもアイデアを提案し、共有している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の残在機能をできるだけ活用し、リハビリ、リズム体操を行っている。又外出や買い物へ出かけ職員と一緒に畑作業の手伝いもされている。			
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診・運営推進会議へご協力いただいております。家族からのお礼の言葉もかけて頂いている。2か月に一回、GH便りや近況報告も定期的に行っている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と協力を得ながら、盆・正月帰省、外出・外泊支援も行っている。外出時、懐かしい風景や知人に出会えたり、故郷を思い出される場面もある。	近隣の方がその地域ならではの漬物や野菜を持って訪問されています。地元の学校と定期的な交流が行われています。	スタッフの異動があっても利用者がそれまで通りの関係を維持できるように、利用者個別の記録を随時更新されるとよいでしょう。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自由に居室で過ごしお茶を飲まれたり、愛用の椅子、ソファに座り窓側で日光浴を楽しまれている。時々利用者同士で口論になりかけ職員が双方の間を取り持っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所期間が二週間と短く、家族からの心配が一番大きい。他の施設への支援も本人の状態に合わせ、主治医と相談し、事業所や家族としっかり向き合い話し合いをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との日々の関りの中で思いや意向を引き出し、ケース会議・サービス担当者会議での気付きを共有している。家族からの情報を基に個別プランへ実施している。	利用者本人の意向はなかなか具体的にはできませんが、日々の関わりの中で声をかけ、言葉や表情から推測するとともに、家族や関係者から情報が得られています。	利用者一人ひとりの思いや希望の把握は不可欠ですので、「本人の意向はどうか、その人らしく生きる」という視点に立って検討されることを期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活環境を知る事で職員と意見交換を開催し、情報提供の場を設ける。経過等は各担当者ADC調整に記録しケアの見直しをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録の把握から、職員の申し送りの徹底を行っている。利用者個々の体調の変化に気付き、早期の対応を心がけ、なるべく本人のペースでゆっくり過ごして頂いている。体調の変化で家族へ連絡をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース会議を行い、本人・家族・職員からのアイデアや意見を参考にしている。入所して一ヶ月と三ヶ月モニタリングを実施し介護計画を作成している。	アセスメント・モニタリングを繰り返し、設定期間ごとの見直しがなされています。本人や家族の意見はあまり出ていませんが、アセスメントを含めスタッフ間でカンファレンスを行っています。	本人や家族からの要望や状況の変化がなくても、毎回新鮮な視点での確認が望まれます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務記録変更後、職員全員がパソコン入力にも慣れ、記録も早くなっている。誤字や印ミスも時々あるが、個人の記録で過ごされた様子が把握しやすい。職員個人でケア担当者を決め、経過記録を責任もって取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居後、年々介護度も高くなられていく中で利用者の異変時に備え主治医へ相談をしている。職員も定期受診へ付き添っていく事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の小学校行事に参加したり児童とのふれあいや慰問がある。近くのスーパーでの買い物・外食など行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の健康に応じ状態やかかりつけなどに受診している。突発的な事があった際には家族へ連絡し希望する病院が無いか確認している。	法人の嘱託医の他、入所前のかかりつけ医の診察を受けられるように受診や通院を本人や家族の希望にそって支援されています。認知症専門医や歯科の訪問診療などの受診もあり、家族に日頃の状況を伝え、受診後の報告を家族から受けることで情報の共有が図られています。	将来起こるであろう課題を発見し、計画的な対応を工夫されることでより良い支援が可能になると思われます。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入浴や排泄介助時皮膚観察し表情や顔色食事摂取量など変化がある時には連絡している。利用者健康診断、インフルエンザ予防接種等に関してもその都度対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院には、本人の状態や家族の意向・主治医との連携を取り、管理者・ケアマネと相談を行っている。入院中も定期的な面会や、家族とのコミュニケーションを図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃より、家族とのコミュニケーションを大切にし急変時や終末期に備え本人の意向を取り入れながら家族が望む対応をしっかり確認し施設の方針の説明を行いながらその後のケアを決めている。	本人や家族の意向を踏まえ、安心して終末期を迎えられるように施設の方針を説明するとともに確認がなされています。現在のところ重度化した場合、利用者が入院を希望されているようです。	本人や家族の意向とともに本人にとってどうあるのが良いのか、事業所が対応しうる最大の支援方法を踏まえ、今後の取り組みの検討されることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故や急変時が起こった場合は早急に連絡をし早期な対応を心がけている。研修を踏まえ職員間で対応の仕方等を話し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回(昼間・夜間想定)を母体と合同の防災訓練を実施している。「災害時の対応と緊急避難について」の研修会へ参加しグループホーム火災について事例勉強会を学び再度、火災報知機や消火器の使い方の復習を確認している。職員の緊急連絡網を通し訓練の練習を行った。	法人グループとの連携で年2回実施されています。他施設の防災の資料を基に勉強会に参加するなど、災害時にどのように職員が動くべきかをシミュレーションし、問題点を見出す努力をされています。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常の行動や表情を見ながら視線を利用者に合わせて声かけ、挨拶している。利用者の名前もゆっくり、丁寧に呼びかけトイレの扉が開いた状態であればさりげなく閉めている。	食事介助時には全職員が対応されています。同じ言葉を繰り返すのではなく、声量や話す速度などを個別に変えることで多様な声掛けがなされています。馴れからくる言葉使いの乱れがないか、時折確認が行われています。	方言も利用者との会話において、有用な場合があります。年配者を敬う視点をもったうえでの言葉使いの多様化を検討されてもよいかと思われます。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事「何が好きですか。何が食べたいですか。」と希望を聞く。入浴「今日はお風呂はどうしますか。どの服に着替えですか。」と声かけ一緒に服を選んでいる。排泄はトイレ誘導し、「終わったら教えて下さい。」と声かけを行っている。買い物に行きたい要望があれば職員と一緒に出掛けしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「今日は何をしましょうか」と声をかけると「何でもよい」と返事をされるので、体操・ゲーム・カラオケに参加してもらっている。また、天気の良い日や暖かい日はドライブや買い物も一緒に出かけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床後、自分で洗顔できる人は自分でされ、髪型は利用者に声かけ介助で行う。自分で洗えない人は、蒸しタオルを使用。爪の手入れは、定期的に行っている。2か月に1回理容師が来苑され散髪している。また行き付けの美容室でパーマをかけられる事もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	常食以外で咀嚼・嚥下の状態に応じて、主(おかゆ)・副(きざみ食)調理の工夫をしている。利用者の好みを聞いたり、できるだけ温野菜を提供し、色合いの工夫もしている。食事の前後は、テーブルを拭いてもらい、職員も一緒に食事をして、お茶碗の片付け、お盆拭きの手伝いもお願いしている。	職員も一緒に食事をし、地元の野菜を使い、利用者が慣れ親しんだメニューを提供するなど楽しい雰囲気作りがなされています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後、食事チェック表に記入している。水分をあまり取られない利用者には、食事チェック表に記入し、食事以外(午前10:00、午後15:30)の水分補給。おやつ時は、意識して水分を取ってもらうように声かけを行っている。ウイダーゼリーや高カロリー食も捕食提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけし義歯使用の利用者は、歯ブラシに歯磨き粉をつけ、自分で磨かれる。出来ない利用者は、義歯を外してもらい、介助で洗うが、うがいは自分でされる。介助の必要な利用者には、ブラッシングは介助をうがいは声かけしている。口腔内の汚れや食物が残っていないか、確認をし口腔ケアの研修へも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりに合った支援を行っている。排便パターンを把握しトイレで排泄を促している。定期的な声かけやパット・紙パンツの使い分けなどその人に合わせた支援を行っている。	各利用者の排泄パターンをチェックし、時間を見て誘導したり、腹部マッサージを行うなど自力での排泄支援に努めていっています。また排泄ケア研修に参加し、便器に座ることを基本に自然排泄ができるような支援がなされています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は食事献立、調理の工夫、水分不足に成らないようチェックしている。便秘が酷い時には腹部マッサージを行いトイレでの排泄を支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ほぼ毎日の温泉浴で嫌がる人もなく満足して頂いていると思う。一番に入浴したい方や仲良く2人で入浴したい方それぞれに対応している。入浴されない方には全身清拭・足浴、アロマオイルマッサージなど対応している。	要望に合わせて毎日、入浴が実施されています。要介護度が高かったり、立位が不安定な利用者には2人体制で介助を行うなど、個々の状態に合わせた対応がなされています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの部屋に湿温計がついており、寒い時には電気毛布、湯タンポで保温されている。寝具の調節や雨戸の開閉、寝具の選択、加湿器使用し安眠支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬ポケットを使用し受診時、内服の処方箋を持参し変更などあった時はミーティングや申し送りなどで全員が理解し、本人様が飲みやすい状態で与薬する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活リハと分担しながらできる可能性を引き出し外出支援で気分転換を行っている。室内では、大声でのリズム体操やカラオケ、レクリエーション、畑の手伝いなど活発に行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に合った行事予定で天候に合わせ併設の車を借りて遠方迄出かけ外食を楽しんだり、手作りのお弁当でピクニックを行っている。	日頃は、施設周りを散歩されたり、状況によっては夕方に実施したり、外庭でお茶を楽しまれています。週1回、近くの名水湧水地への外出が企画されています。買い物も要望に沿って個別に対応されています。	一人ひとりがその日の要望にあった形で、戸外へ出かけられるような支援がなされることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の金銭は事務所で管理している。管理が出来る利用者の方は、買い物を楽しみにしておられ、ドライブ等の外出時は常に財布を所持されている。お店にお連れすると目当ての品物を手に取られ、自らレジで支払われる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話での会話も聞き取りにくい場合には職員で対応し知人からの贈り物又は、お便りは職員が本人へ読んであげたり代筆することもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内は明るく季節の花や観葉植物を配置。広々とした共用空間には畳コーナーを設けている。各担当職員が季節に合わせた壁画作りをしている。	共有空間は明るく、畳のコーナーにはこたつが設けられているなど利用者が落ち着いて過ごせる工夫がなされています。また共有空間にて運営推進会議やミニ室内運動会なども実施されており、利用者とのコミュニケーション空間にもなっているようです。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関には歩行リハビリの休憩場所でもあり会話が弾む場所でもある。フロアのこたつでは寛いで職員と一緒にカラオケなど行われている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	その人に合った部屋作りを心掛けている。お茶を飲みたい人は飲みたい時に飲まれ、家族も定期的に居室の季節に合ったタペストリー飾りつけも工夫されている。ゆっくりソファで寛がれている。	室内は明るく、利用者が使い慣れた家具や仏壇など思い出の品が持ち込まれており、それぞれの要望にあったお部屋づくりがなされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は全てのバリアフリーでフローアや廊下、居室の空間も広く作られている。運営推進会議でもミニミニ運動会をフロアで行っている。		